

デザイン総合実習Ⅲ(メディアデザインコース)

必修

開講年次：3年次後期

科目区分：実習

単 位：2単位

講義時間：60時間

■**科目のねらい**：デザイン総合実習Ⅰ、Ⅱを始め、専門教育科目の履修を踏まえ、学生の知識・技術を発展させるための制作課題を与え、具体的な作品制作を通してより実践的なデザイン能力を身に付けさせ、併せて卒業研究に向けての準備指導を行う。様々な企画立案のプロセスを通して視覚伝達デザインの機能を探る個別のゼミ指導を行う。

■**到達目標**：①視覚伝達デザインにおける情報の収集・整理、視覚化の手法を、タイプフェースデザイン・VI計画・フローチャートデザイン・広告企画などを通して理解し、提出作品に反映させる。②ブランディングの視点からオリジナル商品群の企画開発をテーマとして取り上げ、市場リサーチ～業種設定～店舗デザイン～パブリシティ計画という一連のプロセスを通して、社会の中で機能するデザインとしての提案およびプレゼンテーションをおこなう。

■**担当教員**：

吉田 和夫

■**授業計画・内容**：

《第1～7回》情報の視覚化と広告企画デザイン

- 第1回 タイプフェースと視覚情報-1 (グループ) オリジナルタイプフェースによるカレンダー企画
- 第2回 タイプフェースと視覚情報-2 (グループ) 企画と月別イメージ
- 第3回 タイプフェースと視覚情報-3 (グループ) タイプフェースデザイン制作
- 第4回 タイプフェースと視覚情報-4 (グループ) 中間プレゼ
- 第5回 タイプフェースと視覚情報-5 (グループ) タイプフェースデザイン制作
- 第6回 タイプフェースと視覚情報-6 (グループ) タイプフェースデザイン制作
- 第7回 タイプフェースと視覚情報-7 (グループ) プレゼンテーション/展示用パネルアップ

《第8～15回》ブランディングの手法としてのビジュアルデザイン

- 第8回 デザインとブランディング-1 ガイダンス
- 第9回 デザインとブランディング-2 (グループ) 対象となる商品群の設定/市場リサーチ
- 第10回 デザインとブランディング-3 (グループ) 参考事例の特性抽出/報告書作成
- 第11回 デザインとブランディング-4 (グループ) ビジュアル アイデンティティ企画
- 第12回 デザインとブランディング-5 (グループ) キービジュアルとメディア別広告展開
- 第13回 デザインとブランディング-6 (グループ) 企画、制作物のまとめ
- 第15回 デザインとブランディング-7 (グループ) プレゼンテーション/展示用パネルアップ

■**教科書**：なし

■**参考文献**：授業中に適宜指示する

■**成績評価基準と方法**：プレゼンテーション、制作物評価、全体評価

評価方法	到達目標		評価基準	評価割合(%)
	到達目標①	到達目標②		
定期試験				
小テスト・授業内レポート				
授業態度			グループ学習時は出席日数をもとに授業への参加姿勢を評価する。	10
発表	○	◎	コミュニケーション能力	30
課題・作品	◎	◎	①情報の収集・整理、視覚化に至るプロセスの整合性および独創性。 ②リサーチ～企画～提案に至るプロセスの整合性および独創性。 ※①50%+②50%の比率 ※課題の提出は必須	60
出席		◎	2/3以上の出席	欠格条件
その他				

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：デザイン総合実習Ⅰ、デザイン総合実習Ⅱ、広告デザイン、編集メディアデザイン

■**その他(学生へのメッセージ・履修上の留意点)**：身近なメディアで見られる模様や図形そして配色、また、文字やイラストレーションなどをデザインの視点で観察し、その形状に埋め込まれたメッセージを理解することで、自らのデザインの幅を広げて欲しい。

デザイン総合実習Ⅲ(メディアデザインコース)

必修

開講年次：3年次後期

科目区分：実習

単 位：2単位

講義時間：60時間

■**科目のねらい**：デザイン総合実習I、IIを始め、専門教育科目の履修を踏まえ、学生の知識・技術を発展させるための制作課題を与え、具体的な作品制作を通してより実践的なデザイン能力を身に付けさせ、併せて卒業研究に向けての準備指導を行う。アート制作系の個別のゼミ指導を行う。

■**到達目標**：①自己のアイデンティティを社会との関係の中から考察するアートを習得する。
②表現における概念の構築と技法を習得する。
③プレゼンテーション方法や展示における空間構成を習得する。

■**担当教員**：【◎は科目責任者】

◎上遠野 敏

■**授業計画・内容**：

- 第1回 オリエンテーション、フォト・ルポルタージュ1（レクチャー、構想）
- 第2回 フォト・ルポルタージュ2（構想）
- 第3回 フォト・ルポルタージュ3（現地取材）
- 第4回 フォト・ルポルタージュ4（現地取材）
- 第5回 フォト・ルポルタージュ5（作品構想の発表と意見交換）
- 第6回 フォト・ルポルタージュ6（プレゼン作成）
- 第7回 フォト・ルポルタージュ7（プレゼンテーション、展示）
- 第8回 行為と記録によるビジュアルブック1（レクチャー、構想）
- 第9回 行為と記録によるビジュアルブック2（作品構想の発表と意見交換、制作方法の検討）
- 第10回 行為と記録によるビジュアルブック3（制作：行為を記録）
- 第11回 行為と記録によるビジュアルブック4（制作：行為を記録）
- 第12回 行為と記録によるビジュアルブック5（制作：整理分類）
- 第13回 行為と記録によるビジュアルブック6（編集、解説、装丁、製本かデジタル化）
- 第14回 行為と記録によるビジュアルブック7（プレゼンテーション、展示）
- 第15回 全体総括

■**教科書**：なし

■**参考文献**：適宜授業中に指示する。

■**成績評価基準と方法**：プレゼンテーション、作品の評価など総合的に評価する。（出席15%、プレゼンテーション15%、作品70%）

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合(%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③		
定期試験					
小テスト・授業内レポート					
授業態度					
発表			◎	熱心な取り組み	15
課題・作品	◎	◎		課題作品の内容	70
出席	○	○	○	2/3以上の出席が必要 出席回数×1点	15
その他					

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：デザイン総合実習I、II、現代芸術論

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：

デザイン総合実習Ⅲ(メディアデザインコース)

必修 開講年次：3年次後期 科目区分：実習 単位：2単位 講義時間：60時間

■**科目のねらい**：デザイン総合実習Ⅰ、Ⅱのほか専門教育科目の履修を踏まえ、学生の知識・技術を発展させるための制作課題を与え、具体的な作品制作を通してより実践的なデザイン能力を身に付けさせ、併せて卒業研究に向けての準備指導を行う。特に、商品開発企画、サービス企画、プロモーション企画、番組企画などの企画デザインに関するゼミ指導を行なう。

■**到達目標**：①社会調査およびデータ分析の方法について理解する。
②企画立案、企画書の作成および企業等へのプレゼンテーション

■**担当教員**：

武田 巨明

■**授業計画・内容**：

- 第1回 アイデア会議：発想、ブレインストーミング
- 第2回 企画概要作成、コミュニケーション戦略作成
- 第3回 情報収集、アンケート作成
- 第4回 情報収集、アンケート作成・調査
- 第5回 情報分析、アンケート集計
- 第6回 企画書作成
- 第7回 プレゼンテーション
- 第8回 ガイダンス
- 第9回 アイデア会議：発想、ブレインストーミング
- 第10回 企画概要作成、コミュニケーション戦略作成
- 第11回 情報収集、アンケート作成
- 第12回 情報収集、アンケート作成・調査
- 第13回 情報分析、アンケート集計
- 第14回 企画書作成
- 第15回 プレゼンテーション

■**教科書**：特に指定しない。

■**参考文献**：適宜、資料等を配布する。

■**成績評価基準と方法**：授業態度20%、課題50%、出席30%

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③		
定期試験					
小テスト・授業内レポート					
授業態度	○	○			20
発表					
課題・作品	○	○			50
出席	○	○		2/3以上の出席	30
その他					

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：適宜、現地調査、企業などとのミーティングを行なう。日頃から、新聞等により社会の動きに関心を持ち情報収集に努めること。

デザイン総合実習Ⅲ(メディアデザインコース)

必修 開講年次：3年次後期 科目区分：実習 単 位：2単位 講義時間：60時間

■**科目のねらい**：デザイン総合実習Ⅰ、Ⅱを踏まえ、これまでの知識・技術を発展させるための具体的な作品制作を通して、より実践的なデザイン能力を身に付ける。併せて卒業研究に向けての準備指導を行う。

近年、重要視されている映像と音響を使用した空間の構築を念頭に、デジタル機器や様々なプログラミングの基礎的な知識の習得を目標とし、様々な表現空間の構築の実践を行う。

■**到達目標**：①様々なサウンドアンドビジュアル機器の習得を通して、音映像表現の方法を探る
②サウンドアンドビジュアル空間の企画、方法を習得し、その実践を通して多様な空間表現を学ぶ

■**担当教員**：

石田 勝也

■**授業計画・内容**：

〈1～7週 サウンドアンドビジュアル機器の機能と特徴を知る〉

第1回 映像と音響そして空間の関連性について(オリエンテーション)

第2回 サウンドアンドビジュアル インタラクションにおける基礎知識

第3回 サウンドアンドビジュアル機器基礎講座1(様々なデジタル楽器)

第4回 サウンドアンドビジュアル機器基礎講座3(ビデオミキサー等映像機器)

第5回 サウンドアンドビジュアル機器基礎講座4(VJソフト使用法「VDMX」「GrandVJ」)

第6回 サウンドアンドビジュアル機器基礎講座5(Max、Processing等クリエイティブコーディング入門)

第7回 サウンドアンドビジュアルセッション(機器を使った映像音響パフォーマンス)

〈8～15週 サウンドアンドビジュアル空間の実践〉

第8回 サウンドアンドビジュアル空間の構築 1(実例紹介)

第9回 サウンドアンドビジュアル空間の構築 2(企画1)

第10回 サウンドアンドビジュアル空間の構築 3(企画2)

第11回 サウンドアンドビジュアル空間の構築 4(参考空間リサーチ)

第12回 サウンドアンドビジュアル空間の構築 5(空間構築の準備1)

第13回 サウンドアンドビジュアル空間の構築 6(空間構築の準備2)

第14回 サウンドアンドビジュアル空間の構築 7(空間構築の実践)

第15回 サウンドアンドビジュアル空間の構築 8(総括)

■**教科書**：なし

■**参考文献**：2061:A Max Odyssey ノイマンピアノ(赤松正行+佐近田展康)

Processing：ビジュアルデザイナーとアーティストのためのプログラミング入門

(ベン・フライ、ケイシー・リース、中西泰人、安藤幸央、澤村正樹、杉本達應)

■**成績評価基準と方法**：実習過程での制作課題の個別評価と総合評価による。

プレゼンテーション評価、出席、レポートなど

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合(%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③		
定期試験					
小テスト・授業内レポート					
授業態度	○	○	○	各回の課題への理解と企画力、展開能力	20
発表	◎	◎	◎	コミュニケーション能力	40
課題・作品	◎	◎	◎	課題に対する展開能力と独創性、社会性	40
出席				2/3以上の出席	欠格条件
その他					

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：メディアデザイン論、メディア文化史、知的財産権論、ブランド構築、メディア芸術論、出版メディアデザイン

■**その他(学生へのメッセージ・履修上の留意点)**：電子楽器や映像機器を実際に触りながら、サウンドとビジュアルの連携とは何かを考えていきます。様々な「もの」や「こと」に興味を持ってきて下さい。なお、前・後半の内容については、別々に受けても問題ない内容とします。

デザイン総合実習Ⅲ(メディアデザインコース)

必修

開講年次：3年次後期

科目区分：実習

単位：2単位

講義時間：60時間

■**科目のねらい**：デザイン総合実習I、IIを始め、専門教育科目の履修を踏まえ、知識・技術を発展させるための制作課題を通じて実践的なデザイン能力を身に付ける。併せて卒業研究に向けての準備指導を行う。特に、自発的テーマ設定に基づくメディア表現のプロセスを重視し、アイデア段階から具体的成果物に至るまでの思考や手法について支援する。前半は、DIY的発想にもとづく実験的プロジェクト（研究調査／活動／パフォーマンス／作品）を具現化し、何らかのメディアを通じて発表することに挑戦する。後半は、様々な写真表現とその方法論を参照しながら、撮影対象に向き合い、プリントで魅せる写真表現に挑戦する。スマホで即興的に撮影・シェアされるのがファストフォトグラフだとすれば、これはスローフォトグラフである。

■**到達目標**：①自発的なテーマ設定ができる
②設定テーマに関連する先行事例・歴史・表現手法・技術の調査ができる
③制作・研究手法の基礎的な理解（調査、実験・検証、展示・発表）

■**担当教員**：

須之内 元洋

■**授業計画・内容**：

〈第1～7回〉

テーマ：DIYの実践

第1回 ガイダンス、レクチャ（制作研究の方法論、論文研究の方法論）
第2回 レクチャ、ディスカッション
第3回 構想プレゼン、ディスカッション
第4回 制作、著述、ディスカッション
第5回 制作、著述、ディスカッション
第6回 制作、著述、ディスカッション
第7回 プレゼンテーション・展示

〈第8～15回〉

テーマ：写真表現—スローフォトグラフ

第8回 ガイダンス、撮影ワークショップ
第9回 レクチャ、現像・加工ワークショップ
第10回 構想プレゼンテーション、ディスカッション
第11～12回 制作、ディスカッション
第13回 レクチャ、プリントワークショップ
第14回 制作、ディスカッション
第15回 プレゼンテーション・展示

■**教科書**：なし

■**参考文献**：〈第1～7回〉「スペクタクルの社会」など。授業中に適宜紹介する。
〈第8～15回〉「現代写真論」シャーロット・コットン、晶文社、2010など。

■**成績評価基準と方法**：授業内課題60%、授業態度・発表40%

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合 (%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③		
授業態度	○		○	積極的姿勢	10
発表	◎	◎	○	独創性	30
課題・作品		◎	◎	プロセスの整合性 独創性	60
出席				2/3以上の出席	欠格条件

◎：より重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：デザイン総合実習I、II、卒業研究

■**その他（学生へのメッセージ・履修上の留意点）**：各自がアイデアを持ち寄り、アイデアのブラッシュアップ、テーマ設定をずるところから始めます。毎回の授業を有意義に行うため、準備、調査、制作を率先して行う気概が必要です。